


第256号
2025年7月19日

日本大学鶴ヶ丘高等学校 広報部
東京都杉並区和泉2-26-12
TEL 03-3322-7521 (代)
<https://www.tsurugaoka.hs.nihon-u.ac.jp>



第1学年 オリエンテーション

学 校 行 事 《 第1学期 》

4月5日	第74回入学式	20日	中間試験 (～23日)
7日	1学期始業式	24日	英検準会場受験
8日	部活動説明会	26日	2年特進 共通テスト対策講座 (～令和8年2月21日)
9日	全学年スタディーサポート	28日	3年特進 共通テスト模試 (～29日)
11日	1年 着こなしセミナー		1年 進路適性診断②
12日	1年 オリエンテーション (～14日) 於：富士緑の休暇村	29日	3年総進 日大チャレンジ模試
16日	1・2年 基礎学力到達度テスト	6月7日	校内英語スピーチコンテスト
17日	3年 基礎学力到達度テスト	21日	鶴ヶ丘祭 (～22日)
18日	生活指導講演会	25日	3年特進 記述模試 (～26日)
19日	全学年保護者会		2年特進 記述模試
21日	3年特進 記述模試 (～22日)	28日	3年 生徒・保護者対象進路説明会
25日	定期健康診断	7月3日	期末試験 (～7日)
30日	3年 志望理由書講座	9日	答案解説授業 (～10日)
5月1日	3年 実力養成講座	12日	特待生・奨学生授与式
	(総進：～9月22日、特進：～10月31日)	16日	三者面談 (～18日)
2日	生徒総会 (前期)	18日	ケンブリッジサマープログラム出発 (～8月4日)
7日	3年 志望理由書サポート	19日	1学期終業式
8日	学年行事 2・3年 校外授業	22日	2・3年特進 合宿講習 (～26日)
	進路適性診断①		夏期講習Ⅰ期 (～26日)
10日	オープンスクール	28日	海外語学研修出発 (AU：～8月19日、NZ：～20日)
	2年 保護者対象修学旅行説明会	8月16日	部活動フェス
19日	教育実習開始 (～6月7日)	25日	夏期講習Ⅱ期 (～29日)



入学おめでとうございます

令和7年度

第74回入学式

440名(男子235名・女子205名)が仲間入り

令和7年度入学式が四月五日(土)午前十時より、本校体育館で行われた。四四〇名の新生は新たな一歩を踏み出し、校内の桜の樹も新生たちの門出を祝福した。

来賓には、日本大学学長代理、山室裕生物資源科学部次長をはじめ、多くの方々を迎え、晴れやかにして厳かに式が挙行された。式終了後、新一年の学年主任、学級担任、学年担当が小林仁教頭によって壇上から新入生保護者に紹介された。

式次第

- 開式
- 国歌斉唱
- 学校長式辞 寒川 聡校長
- 学長祝辞 大貫進一郎学長
- (代読)山室裕生物資源科学部次長
- 在校生代表 歓迎の言葉
- 生徒会長
- 三上 星 ひかり (国分寺三中)
- 新入生代表 誓いの言葉
- 一F 六本木瑠璃(八坂中)
- 新入生代表 保護者代表挨拶
- 大野 隆司様
- 校歌斉唱
- 閉式

式辞 学校長 寒川 聡

春うらかな今日の佳き日、令和7年度第七十四回日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式を挙げるにあたり、日本大学生物資源科学部学部長山室裕先生をお迎えし、ご来賓として日本大学生物資源科学部事務局次長道明康毅様、前校長川原容子先生、桜園会会長本郷辰博様、同窓会会長田中則雄様のご臨席を賜り、また、保護者の皆様の多数のご列席をいただき、この上ない喜びでございます。教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

四四〇名の新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは自らの意思で本校を選び、人物・学業ともに優れていると認められ、今日の日を迎えられました。今までの努力に敬意を払い、皆さんの入学を教職員一同、心より歓迎いたします。

本校は、一九五一年に日本大学農獣医学部、現在の生物資源科学部の併設校として誕生し、七十五年を迎えようとしています。その間、多くの優秀な人材を輩出し、社会に貢献しております。

皆さんが鶴ヶ丘高等学校の生活をスタートするにあたり、本校の校訓である「自主創造」「真剣力行」「和衷協同」をしっかり心に刻むことを望みます。

「自主創造」とは、日本大学の教育の理念でもあり、自ら学び、考え、道をひらくことであります。自ら進んで人間としての存在を確かめ、自主性をもって、

学習や生活はもとより様々なものに意欲的に取り組むことです。

「真剣力行」とは、安易な気持ちで克服する強い心をもつて、持っている力をすべて出し切って、全身全霊で励むことです。

「和衷協同」とは、同じ目標に向かって、心を合わせ、力を寄せ合い、ともに行動することです。

本校では、この三校訓をもとに、日本大学のブランドデザインを作っています。そして育みたい生徒像を、主体的・協働的に「考える生徒」「学ぶ生徒」「道をひらく生徒」としています。

今、世界に目を向けると、戦争、分断など情勢的な不安があり、国内では経済的な問題や自然災害が起きています。皆さんがこれから歩む道は決して平坦ではないかもしれません。しかし、困難に立ち向かい、努力を重ねることで、その先には大きな成果と喜びが待っています。

その実現のためには、しっかりと基礎学力と、人と分かり合えるための対話や思いやりが必要となります。これから





令和七年四月五日

らの三年間で今まで培った知識をもとにしてさらに進化・発展し、世界を広げ、夢を持ち、自己実現に向かって進み、社会に貢献することを期待します。

結びにあたり、保護者の皆様へ申し上げます。改めてお子様のご入学、誠におめでとうございます。私も教職員一同は、保護者の皆様に対しまして、これまでのご苦労にねぎらい申し上げ、併せて限らない可能性に富んだ新入生の入学を心から祝福し、歓迎いたします。

そして、本校の総力を結集して、教育効果を最大限に高めたいと決意を新たにしております。しかしながら、教育の成果は学業における努力のみでは達成できません。保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針をご理解いただき、密接な連携を保ちながら、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本校における生活が、光り輝くものとなることを心から願ひ、私の式辞とさせていただきます。

祝辞

日本大学学長

日本大学短期大学部学長

大貫進一郎

本日、御来賓の御臨席並びに多数の保護者の皆様の御列席を賜り、ここに令和七年度第七十四回日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式が盛大に挙行されますこと、心よりお祝いを申し上げます。日本大学を代表し、お祝いの言葉を申し上げます。

新入生の皆さん、改めて御入学おめでとうございます。多くの選択肢の中から本校を選んだ皆さんを心から歓迎するとともに、その期待に応えるべく、一人ひとりの未来作りをサポートして参ります。

保護者の皆様、お子様の御入学に際し、心よりお祝いを申し上げます。お子様が正課内外の活動を通して大きく成長できるように、教職員一同、丁寧に教育に当たって参ります。本校の教育方針を御理解いただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

日本大学は、一八八九年に創立された日本法律学校を前身とし、「自主創造」を教育理念としています。欧米の法制度を積極的に取り入れる風潮にあった明治時代、学祖である山田顕義は、海外視察で広めた見聞に基づいて、日本固有の文化や風土に合った法律の必要性を感じるようになり、これを教授する機関として設立されたのが、先の日本法律学校であり、前例に捉われず、新たな領域



に挑戦するこの精神が「自主創造」という、本学の教育理念として受け継がれています。「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」という「自主創造」の三つの柱を、皆さんも在籍期間を通して積極的に体现されることを大いに期待しています。

さて、新入生の皆さんが、これから学園生活を始めるに当たり、大切にしたいいただきたい三つのことをお話しさせていただきます。

一つ目は、「経験」です。前向きに新しいことに挑み、自身の道を開拓することとは高校生の特権でもあります。単なる机上の空論ではなく、自ら実際に「経験」し、そこから学ぶことを大いに楽しんでください。もちろん、その全てが成功裏に終わらないかもしれませんが、そ

うであつても、自ら「経験」したことは次のステップで必ず活かすことができますし、うまくいかなかった理由をしっかりと省察することでさらなる成長につながります。

二つ目は、「責任」です。中学生から高校生になった皆さんは、今までも自身に意志に基づいて行動できるようになるでしょう。もちろんこれは成長の証ですが、この広がる自由度と表裏一体にあるのが「責任」です。自ら判断して行ったことには「責任」を持つこととなりますので、この点はしっかりと心に留めておいてください。

三つ目は、「つながり」です。デジタル化が進む今日だからこそ、人と人との対面のコミュニケーションはより重要度を増しています。昨年行われたある研究機関の調査では、十代の四十四パーセントが「SNSの方が自分らしくいられる」と回答しています。もちろん高い利便性や即時性、日常の世界を超えた幅広いコミュニケーションが可能であるということは大きな利点であるのですが、一方で、SNSをめぐるトラブルも多く起こっているのが実情です。対面のコミュニケーションでは、相手の表情や仕草、声の強弱、息づかい、距離感や空気感などを自然と感じることができます。しかし、人間ならではのこの感覚は、SNSでの世界では感じ取りにくいものがあります





し、この感覚を現実世界でどれだけ経験しているかが仮想世界を安心安全に楽しむためにも必要となります。これからの学園生活では、また新たな仲間や教職員との出会いがありますので、是非その「つながり」を大切にしていだくとともに、対面での関わり合いを通して自身を磨いていきたいと思います。

結びとなりますが、今日を迎えられたのは皆さんの努力はもとより、御家族をはじめとする周囲の方々の支えによるものだと思えます。感謝の気持ちを常に忘れず、一日一日を大切に過ごしながら、卒業時には、今以上に輝いていられるようにしてください。そのためには、スタートラインを切った今日、在籍中の目標を是非立ててください。勉強面でもそれ以外の分野でも構いません。三年間は、本当にあっという間ですので、大きな目標とそれに向けたステップを逆算的に定めていただき、目標達成を現実的なものとしていただければと思います。

新入生の皆さん一人ひとりが、有意義で充実した学園生活を送られることを祈念し、私の祝辞といたします。

令和七年四月五日



令和七年三月一日に行われた令和六年度卒業式の「学校長式辞」と「学長祝辞」は例年通り本号に記録として掲載する。

式辞

学校長

川原 容子

一日と桜の開花が待ち遠しいこの佳き日、令和六年度第七十四回日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業証書授与式を挙行するにあたり、日本大学学長代理として、日本大学生物資源科学部長関泰一郎教授をはじめ、執行部の先生、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、このような卒業式を挙行できます事は、卒業生は元より教職員一同この上ない歓びであります。ここに学校を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

三八六名の卒業生の皆さん、卒業おめ

でとうございます。

早いもので、入学式から三年、皆さんは本日めでたく本校所定の課程を終え、卒業式を迎えました。この日を迎えられたのは、皆さんの努力はもちろんですが、今日まで支えてくださった家族をはじめ、多くの方々のご指導やご協力のおかげでもあります。そのことに感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。さて、卒業生の皆さんには、二つの言葉を贈りたいと思います。

最初に「素直な気持ちをもって、謙虚に生きる」です。

今、皆さんは将来への大きな夢を持っていると思います。昔から、偉大なる人たちは、失敗や逆境に抗いながらも、不屈の精神で生き抜き、夢を実現していった経験を多く持っています。

しかし、世の中は甘くない、現実には厳しいと我慢をしながら結局は夢半ばであきらめる人もいます。反対に、順風満帆に思われた夢への実現において、感謝を忘れ、自惚れ故に夢を壊してしまう人もいます。

目まぐるしく変化の速い時代にあっても、最も大切なことは、その与えられた環境にまずは感謝し、「素直」に「謙虚」に生きていけるかどうかだと思います。

素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み、人は自分と向き合うことをやめてしまいます。

素直さは、人を強くし、正しく聡明にしてくれる力だと思えます。環境の違いを憂えるのではなく、厳しいときは素直に受け入れ、うまくいっているときは、その環境に感謝をして、素直にまっすぐ伸びていく人になってほしいと思います。

す。

二つ目は、「頭は「本の読み方」で磨かれる」です。

これは脳科学者である茂木健一郎の言葉であり、本は脳が育つための最良の肥やしと位置付けています。

私自身、手に取ってきた様々なジャンルの本から、深い示唆を与えられ、豊かな考え方が出来るようになったと実感しています。

人は「言葉」を使い続ける存在であり、その言葉は、本で磨かれれば、思いもかけない輝きを放ちます。また、「言葉」は、人とつながり、感情や状況を把握する能力でもあります。

その能力によって、ものの感じ方、世界の見え方、世界に対する動き方、更には、人との結びつき方が変わってきます。インターネットの情報、脳にコピーすること、本を読むことは全く違いま



す。

断片的な情報ではなく、一冊の本の中に込められた、人の思いや気持ち、読み手は時代を超えて追体験しながら、感じるものが出来ます。そうして得た知識は、脳内で発酵して育ち、その人の行動や言動を決めるセンスに変わります。

まずはジャンルを問わず、一冊読み切ってみることはじめてください。その達成感から、また次の本を「読みたい」と思うようになります。

結びに、保護者の皆様には、立派に成長され、鶴ヶ丘高校を巣立とうとしているお子様の姿をご覧になり、お喜びいばかりかと存じます。

ここに、お子様の卒業のお祝いと、ここまで育てられたことに對し、敬意を表すとともに、三年間にわたる本校に對する多大なるご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

令和七年三月一日

祝辞

日本大学学長

日本大学短期大学部学長

大貫進一郎

本日、ここに御来賓及び保護者の皆様をお迎えし、令和六年度鶴ヶ丘高等学校卒業式が挙行されるに当たり、日本大学を代表して祝辞を申し上げます。

まずは卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。日々のたゆまぬ努力によって磨いた知識や技能、思考力や表現

力、さらには友人らとの関わりの中で育んだ協働力や協調性とともに所定の教育課程を修了されたことに、深く敬意を表します。本校での豊かな経験を糧として、新しい舞台で大きく羽ばたいてください。

続きまして、保護者の皆様におかれましては、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。入学から本日までの日々を振り返られますと、様々な想いが胸に去来することと拝察いたしますが、演台から拝見するお子様の表情は、みな、充実感と達成感にあふれておられます。お子様のこれからの更なる御活躍を祈念いたしますとともに、これまで本校に對して深い御理解と多大なお力添えを賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

また、教職員の皆様にも、卒業生一人一人に對し、これまで親身に教育に当たってくださったこと、心より御礼申し上げます。学業はもとより、課外活動など多岐に渡って温かい御指導をいただきましたこと、感謝に堪えません。

私たち日本大学は、ここ数年、いくつかの大きな問題と向き合っており、目下、一つひとつ丁寧な、しかし迅速に、学生・生徒の笑顔あふれるキャンパス作りに取り組んでおります。特に卒業生の皆さんには、「日本大学」が冠される学校を卒業したことをこれからの長い人生で誇っていただけるよう、目に見える改善・改革を行うことをここにお誓いいたします。

さて、ここからは卒業生の皆さんに少しお話をさせていただこうと思います。今日の社会は、VUCAとも称されるように、変化が目まぐるしく、予測が難しく

なっている一方、コロナ禍を経てデジタル化が加速したことにより情報があふれ、情報を適切に取捨選択することが非常に重要になってきています。そこで大切なのは、自ら主体的かつ積極的に情報に触れながら学び、論理的かつ批判的に考え、挑戦的でありながらも省察を大切にして新たな世界を切り拓くという姿勢です。今の言葉、皆さんは耳馴染みがないでしょうか。これは「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という日本大学の教育理念「自主創造」の三つの柱を、現代社会に即して具体的に言い換えたものです。皆さんが本校で得た学びの姿勢を丁寧に守り続けられ、必ずやこの難しい時代を乗り越えることができるだけでなく、新しい社会を牽引する人材になると信じています。

また、これからの社会では、従前のように文系・理系の二極で区別するのではなく、様々な「知」を組み合わせ、イノベーションを起こす力が必要となります。そこで重要なのは、様々な分野の仲間たちとの関わり合いです。学びの面だけでなく、芸術やスポーツなどジャンルは問いませんが、仮に自身と同一の観点や志向、技術を持つていない人であっても、相手の価値観を尊重し、大切にしてください。そうしたコミュニケーションや協働を日頃から行うことで、自身の考え方が磨かれるだけでなく、他者をつなぎ、チームのパフォーマンスを向上させる人材となることができます。

最後になりますが、皆さんは本日をもってこの学び舎からは巣立つこととなります。共に学んだ仲間、親身になってくれた先生方と離れることへの寂しさを

感じている方は多いでしょうし、それと裏腹に、これからの新生活への不安を抱いている方も多かもしれません。しかし、これは別れではなく新しい関係のスタートでもあります。これからもこの学び舎で紡いだ絆を胸に、前を向いて歩んでください。そして、もし、苦しいと感じるような場面があれば、いつでもこの学び舎に足を運んでください。皆さんのよりどころとして、いつでも門戸を開いています。

皆さんの前途洋々たる門出を心から祝し、また皆さんの今後の成長に大いに期待し、祝辞とさせていただきます。

令和七年三月一日



広報室

〈新任〉

◎専任

荒木 望永 先生 (保健体育科)

謙虚な気持ちと熱意を持って一緒に頑張ります。よろしく願いいたします。

〈異動 (転入)〉

寒川 聡 先生 (数学科)

令和七年四月一日付で、日本大学豊山女子高等学校・中学校より、本校に第十六代校長として着任されました。

〈退職〉

川原 容子 先生 (数学科)

令和七年三月三十一日をもって定年退職されました。本校には永きに渡り多大な貢献をなされました。ありがとうございます。

新藤 隆夫 先生 (数学科)

令和七年三月三十一日をもって定年退職されました。本校には永きに渡り多大な貢献をなされました。ありがとうございます。

谷口 富太郎 先生 (英語科)

令和七年三月三十一日をもって退職されました。本校には永きに渡り多大な貢献をなされました。ありがとうございます。

〈異動 (転出)〉

小山 拓哉 先生 (国語科)

令和七年四月一日付で、日本大学豊山高等学校へ転出されました。

◎非常勤講師

奥田 惇 先生 (国語科)

グローバルな人材が求められる昨今、だからこそ皆さんには古典の世界を教養として知ってほしいです。そのお手伝いができるように頑張りたいと思うので、よろしく願います。

山口 幹太 先生 (国語科)

これから皆さんと、言葉に向き合うことのむずかしさ、たのしさを一緒に味わっていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

加藤 郁哉 先生 (地歴公民科)

僕自身も皆さんと一緒に学んで、成長していけるよう頑張りたいと思います。一年間よろしく願います。

木村 桂馬 先生 (数学科)

はじめまして。皆さんに楽しい・分かる授業を提供できるように頑張っています。よろしく願います。

太田 圭祐 先生 (数学科)

数学の楽しさを伝えられるように頑張ります。一緒に楽しい授業を作っていきます。

永井 順子 先生 (数学科)

こんにちは。数学は解けたときと理解できたときが一番楽しいですよ。一緒に

A・H・A体験を味わいましょう。よろしくお願いします。

山崎 歩 先生 (理科)

新たな気持ちで励んで参りますので、ご指導・鞭撻のほどよろしくお願い致します。

石野 茉由 先生 (英語科)

鶴高生のみなさんと楽しく、一日一日を大切に過ごしていけたらと思います。よろしく願います。

渋谷 治輝 先生 (英語科)

一年ぶりに帰って参りました。また皆さんにお会いできて嬉しく思います。皆さんが英語の世界に魅了され、不思議な英語の世界を楽しめることを願っております。

原田 陽平 先生 (保健体育科)

体育、スポーツの楽しさを感じることが出来る授業にしていきたいです。よろしくお願いします。

丸島 未羽 先生 (保健体育科)

できることを少しずつ増やしていけるよう、一人一人に丁寧に向き合っていきたいと思っています。よろしく願います。

横田 彩 先生 (保健体育科)

鶴高生の皆さん、初めまして。授業を通してみなさんに体を動かす楽しさを知ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

令和7年度 第1学年担当教員紹介

学年主任

久保田善政 (理科)

担任

A組 千葉 佑佳 (国語科)

B組 加藤 寛典 (英語科)

C組 萩生田博美 (数学科)

D組 有賀佐友里 (英語科)

E組 荒木 望永 (保健体育科)

F組 津田 寛行 (保健体育科)

G組 生田目裕子 (理科)

H組 大館 亮春 (数学科)

I組 松田 房之 (芸術科)

J組 齋藤 直子 (英語科)

K組 井上 陽介 (地歴公民科)

副担任

徳田あゆみ (国語科)

松井 秀之 (国語科)

林 優希 (地歴公民科)

伊沢 康子 (数学科)

武田 玲 (英語科)

学年付

近藤 明宏 (理科)

三塚 咲 (保健体育科)



新校長挨拶



第十六代校長 寒川 聡

令和七年四月一日付けで、日本大学鶴ヶ丘高等学校長を拝命いたしました、寒川聡です。創設七十五年を迎えるこの学校に勤務できることは、光栄であると同時に重く責任を感じております。前校長、川原谷子先生をはじめ、多くの先生方が築き上げた伝統を守りながら、常に新しいものに挑戦していきたいと考えております。

私の教員としてのスタートは、日本大学豊山高等学校・中学校での非常勤講師からです。平成元年に日本大学高等学校・中学校に専任として採用され、平成八年に日本大学豊山女子高等学校・中学校に異動しました。この度、縁あって日本大学鶴ヶ丘高等学校に着任しました。かつて勤めていた豊山と、当時の日大高校は男子校であり、豊山女子は日大付属唯一の女子校でありました。鶴ヶ丘高等学校は共学校ですので、三つの環境を経験することとなります。また、中学校のない高校のみの学校も初めてであり、自身に

とつてよい勉強になるだろうと確信しています。今までの経験をもとにしながらも、共学校の良さを体感し、生徒が充実した学校生活を送れるように最善を尽くしていきたいと思っています。

川原先生からの引き継ぎの中で、本校の三校訓である「自主創造」「真剣力行」「和衷協同」を学校全体がとても大切にしていることを感じました。自ら考え自主創造)、何事にも一生懸命に取り組み(真剣力行)、仲間と力を合わせる(和衷協同)。それらをもとにして、始業式では生徒の皆さんに「挑戦」という言葉を新たに示しました。その中で失敗を恐れないこと、失敗という発見をすること、試行錯誤の大切さについてもお話ししました。もちろん同じ過ちを繰り返すことはよくありませんが、その経験によって新しい活路が見出されます。これは学習についても同じです。すぐに正解に到達することはそれほど多くありません。試行錯誤を重ねることによって多様な能力が身に付き、それを基本として応用・発展していくことができます。また、失敗したときの気持ちを経験することで、他者への思いやりや協同する大切さも実感できるでしょう。学習や部活動、海外留学や高校生対象のコンテストなどにも挑戦してほしいと思っています。そしてそれらを皆が応援し、対話をし、互いに励まし合える学校になっていくことを期待します。

前校長退任の挨拶

第十五代校長 川原 容子

この度、令和七年三月末日を持ちまして日本大学鶴ヶ丘高等学校を退職いたしました。

この場をお借りしまして、教職員・生徒・桜園会・同窓会そして多くの関係者に退職のご挨拶をさせていただきます。

鶴ヶ丘一筋で四十三年間勤めさせていただき、さらに、平成二十七年四月からは、第十五代校長を拝命し、十年間勤めさせていただきました。大過なく退職できましたことは、皆様方の温かいご支援とご協力のお陰と感謝し、心より厚く御礼申し上げます。

特に在職中には、新型コロナウイルスが蔓延し、未曾有の試練にさらされました。多くの難題もありましたが、教職員・生徒・保護者の方々のご協力により、安心・安全を第一優先とし、教育活動を前に進めることが出来ました。

平生では、三校訓「自主創造」「真剣力行」「和衷協同」のもと、より具体的なグラウンドデザイン、スクールミッショーン・スクールポリシーを掲げ、教育活動の指針としてまいりました。

特に、本校の強みでもある文武両道を、主体的な活動の上で推し進めました。社会で活躍するバランスのとれた人となるよう、今後も期待するところです。

ここ数年のICT教育・アクティブラーニング・探究学習など、急激な教育

環境の変化もあり、戸惑い、歩きながら考える日々もありました。

しかし、そこだけに囚われることなく、諸先輩から引き継いだ、教育に対する情熱を絶やさず、現場で全教職員と共に、鶴高生のために挑戦出来たと感じています。

また、全付属で初の女性校長をさせていただきました。手本とする背中はありませんでしたが、分かり合えないことを前提に、粘り強く対話を継続し、仕事に對して誠実に向き合うことが出来ました。

社会で女性が子育てをしながら働く環境は、自身が経験した時代からは、格段に良くなってきましたが、まだまだ十分とは言えません。

より一層ダイバーシティの推進が進むことを心から願っています。

結びになりますが、親学部である生物資源科学部の学部長・局長をはじめ、多くの教職員のご協力に感謝申し上げますとともに、本校が益々発展し成長されることを心より祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。



第一学年 オリエンテーション



学年主任
久保田善政

四月十二日(土)から十四日(月)まで二泊三日で富士緑の休暇村で新入生オリエンテーションが実施された。

我々が富士緑の休暇村に着くと、富士山が間近に姿を見せてくれた。まずは開校式、そして富士山をバックにクラス集合写真撮影。午後は学校長と生活指導部主任によるガイダンスから始まり、クラス対抗綱引き大会。夜はクラスミーティングで委員や係決めが行われた。入学式から一週間しか経っていないので、最初こそ表情は不安気で緊張している様子であったが、クラスが団結して取り組む綱引き大会以降は仲間どうしで協力しあう姿が見受けられ、表情も和らいできた。

二日目は終日雨。午前中は学年主任と教務部主任、生徒会指導部主任によるガイダンス。午後はドッジボール大会。夜はクラスミーティン

グでコンセンサスゲームによるチームビルディングが行われた。雨のため当初予定のハイキングができなくなったが、朝から夜まで盛りだくさんな内容を時間がタイトな中で滞りなく行うことができたのは、生徒達がやるべきことを理解し、互いに協力し合って取り組んでくれたおかげである。

三日目はクラスミーティングでオリエンテーションの振り返りの後、開校式へ。富士緑の休暇村を出発後、郷土料理のほうとうを食べて帰路に就いた。

この三日間で、自分の周りには頼りになる仲間がいるということを確認することができたと思う。今後、勉強のこと、クラス活動、自身の課題の解決のために、いろいろな人から力を借りたり貸したりできる、そのような人間関係を作っていくてほしい。今回のオリエンテーションの内容を生かし、ガイダンスで触れた「自主創造・真剣力行・和衷協同」の三校訓の実践を通して、これから多くの仲間と多様な経験・体験を積み重ねて学んでくれることを期待している。



〈オリエンテーションの思い出〉

E組 神寄 兜(あかね台中)

オリエンテーションではクラスミーティングや課題解決などを通して、新しい仲間の考え方やお互いのことについて知ることができた。さらに二泊三日を共にすることで時間管理や予定の確認など、班やクラスとしての団体行動の基本を身につけることができた。綱引き、ドッジボール大会では、クラスの全員で勝つための作戦を考え、一試合ごとに良かったところや悪かったところを話し合うことで団結力が高まった。結果的には一位を取ることが出来なかったが、勝ち負け以上に大事なものを得ることができたと思う。この二泊三日の経験をこれからの学校生活に活かし、すべてに全力で取り組んでいきたい。

K組 下山 姫慈(檜原中)

入学してわずか一週間後に行われたオリエンテーション。そこには綱引き大会やドッジボール大会、クラスミーティングなど、普段の学校生活では体験できないようなクラスメイトとの交流の機会があった。最初は緊張してお互いぎこちなかったが、行事を終えることに笑顔が増え、いき、クラスの一体感が生まれた

ように感じた。二泊三日の短い時間だったが、一つの目標に向かってみんなが協力することの大切さを改めて学ぶことができた。

これから始まる学校生活。クラスメイトとさらに仲を深め、共に切磋琢磨していく関係を作り上げられるようにこの学びを活かしていきたいと思う。

D組 沼田 明莉(八坂中)

入学して約一週間、不安と緊張が入り混じる中、オリエンテーションを通してたくさんの新しいことに直面しました。そして鶴高生としてのあり方、仲間と協力することの大切さを、改めて感じる事ができました。

綱引き大会では、あまりいい成績を残せませんでした。何回かやっていくうちに、「どうすれば勝てるのか、どう引つ張ればいいのか」など、みんなで話し合い、全力で取り組むことが出来ました。このあとに控える鶴ヶ丘祭、体育祭に向けてもつと絆を深めていきたいと思いました。

これからは、より本格的な授業や試験、部活動などが始まり、大変だとは思いますが、どんな時も周りの人と助け合って、充実した日々を送っていききたいです。

第二学年 校外授業



学年主任
田口 裕基

昨年度に続き、本校教員の中でも私を含めた選りすぐりの雨男雨女三銃士が揃ったにもかかわらず、前例のないほどの快晴に恵まれた。行き先は相模湖MORI MORI（旧プレジャーフォレスト）である。欠席者は例年に比べて少なく、さらに遅刻者は一人もいなかった。やればできる生徒達、心強い限りである。

到着後、クッキングガーデンに移動して、早速、班ごとにカレー作りを始めた。今年は伊勢川先生の事前指導で飯盒炊飯とカレー作りを学んでいたため、各班とも手際よく作業を進め、まさに『華麗ライス』が予定より早く完成した。青空の下での食事は最高！その後の片付けも、協力して進められた。

その後、クラス集合写真撮影を経て、一年生のオリエンテーションに続いての第二回オリエンテーリング大会を開催。V2を狙った我が教員

チームA（田口・山内・長谷川・立原）であったが、B組にとんでもないスーパードリエンターが登場し、残念ながらの二位。

帰りのバスでは生徒も教員もはじめこそ、思い出話で盛り上がりつつあったが、笑顔から寝顔に変化するのになさほど多くの時間を要しなかった。

今回の活動を通して伸びしろを再確認し、十二月の修学旅行に活かし、最高の思い出を創り上げていきたい。



校外授業を終えて

A組 菊地 南帆（神明中）

私は中学一年生の時に学校の行事で一度相模湖プレジャーフォレストに行ったことがありました。同じ場所ではありましたが、中学生の時とは違う体験ができたのでよかったです。

まず違ったところは飯盒炊飯です。中学生の時も行予定だったのですが、まだコロナが流行していた実施できませんでした。その時とても残念に思っていたので、今回できてよかったです。実際にやってみて、難しい部分も多かったですが、班で協力して作ったカレーはとてもおいしく、思い出に残っています。

次にオリ

エンターリングです。これは前回も全く同じものをやったのですが、前回は一番遠くのスタンプを取りに行ってしまう、少ししか回ることができませんで



した。今回は前回よりも多くの場所に行くことができて楽しかったです。また、ゆつくり時間を使えた分、班の人と色々な話ができて、歩くのは疲れたけれど、それ以上に楽しむことができました。

今回の校外授業を通して、色々な人と協力して何かをやったり、話したりすることの楽しさを改めて知れたと思います。中学一年生の時も楽しかったですが、できることが増えて、よい経験になりました。また、修学旅行がさらに楽しみになったので、今回のことを忘れず、今度ももっと他の人の役に立てるようにしたいです。

第三学年

世の中の仕組み
実体験の重み学年主任
相沢 由美

世の中には知らない世界が広がっている。一生かかっても知らずに終わってしまう文化や生業が多々ある。

これまで幾度となく口にしている白米や野菜がどのように生産されているか、スーパーに並ぶ干物がどのようにに捌かれるのかを考えることもなく、食べる楽しみの裏には多くの殺された命があることや、地引網で引き揚げた魚の中には浜にさらされたままになる魚があることに気づくこともなく、害獣であるイノシシを解体・加工する仕事があることも知る機会がなかった第三学年の生徒たちが、第一次産業の意義や役割を考えることを目的の一つとした校外授業で、南房総方面に行きコース別の体験に参加した。

設定したコースは、ジビエ、農作業、田植え、酪農、アジの干物作り、

地引網など七コースである。これまでの校外授業とは異なり、軍手やサングラス、汚れてもいい服などを準備しなくてはいけない。まさか高校三年にもなつて泥の中に足を入れることになるとは想像もしていなかっただろう。

しかし、この日の経験が生徒たちに新しい視点をもたらした。農家の高齢化と後継者不足への認識、田植えが重労働であること、人は殺生をしなければ生きていけないこと、砂浜に残された稚魚とそれを狙うトンビやカラスという弱肉強食の構造。たった数時間の体験が生徒の知っている世界を広げた。

そしてきっと生徒たちはまたこの言葉を思い出したに違いない。「世界は誰かの仕事でできている」

〈校外授業のふりかえり

アンケートより〉

A組 辻 杏樹(板橋二中)

殺さずに済む食品が牛乳と蜂蜜の二品しかないと知ってびっくりした。それくらい人間は多くの動物を殺してしまっていると気付いたのでこれからはもっと食べ物に感謝して、しっかり「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶をしよう

と思った。

D組 山本 凌大(開進一中)

第一次産業に実際に携わってみて農業の大変さややりがい学ぶことができました。また農家の皆さんの話を聞いて今やっていることだけではなく、新しいことに挑戦してみること大切なのだと思います。都会の空気から離れて農業というなかなか体験できない職業について知れて面白かったです。

F組 小座野敬己(大森四中)

普段お店では死んだ魚を見て購入し食べるだけだったが、生きた魚を持たせてもらった時に命の重さを感じ、この感覚は忘れてはならないなと思った。

H組 柿平 千慧(滝野川紅葉中)

少しの時間農業体験をしただけでも疲れました。こんなにも大変な作業を高齢者の方が担っているのは相当大変だなと思うとともに解決していくべき課題だと感じました。

I組 杉田 樺恋(東高津中)

初めての田植え体験は、足元の泥の感触が不思議で、一列に並んだ小さな苗の緑が目に見えやすかったです。農家の方々はこの苗がお米になる

までの長い期間大変な思いをしていることを改めて知り、日々の食を支える大変さと、自然の恵みへの感謝の気持ちが湧き上がりました。泥に足を取られながらも一本一本植えていくうちに、苗への愛着のようなもの芽生え、貴重な経験になりました。

J組 上田 智惺(緑丘中)

命の大切さを感じました。生きている状態の生き物を加工して扱う仕事は相当の覚悟が必要だと実感し、食べ物大切にしようと思いました。

L組 松浦 大樹(高井戸中)

魚を獲ってから食卓に届くまで、様々な人が関わっているのを実感した。



ケンブリッジ大学ペンプルック・カレッジ付属高校生イースタープログラム

【令和7年3月24日(月)～4月10日(木) 18日間】

日本大学の付属高校生を対象としたケンブリッジ大学ペンプルック・カレッジでの語学研修に、3名の生徒が本校の代表として参加しました。研修での貴重な経験は、生徒たちの今後の人生の大きな糧になるでしょう。

3年L組 影山 裕己 (調布八中)

この研修で最高の仲間たちに出会うことができました。彼らは皆、英語をどんどん使ってみたい人・海外に興味がある人・どんな活動にも積極的な人・そしてなんといっても優しい人たちでした。

正直、出発前は「友達はあるだろうか、英語は伝わるのだろうか」という不安の方が勝っていました。しかし、研修最終日に一番に思ったことは「まだ日本に帰りたくない」でした。

もう何年も前から友達だったのかと思うくらい、最高の仲間がたくさんできたからです。ジャパンフェスティバルの委員会活動、歌のグループ練習、授業や現地の大学生が企画してくれた活動、みんなで街に出かけて遊んだこと、寮での生活、どれを取り出しても笑顔でいっぱい、一生の思い出になる時間でした。

出会えた最高の仲間たちと約束しました。「絶対また会おうね」って。

3年E組 江口 舞弥 (桶川中)

このプログラムに参加して、イギリスの歴史や文化を体験し、多くの人との関わりから自分自身を成長させることができました。

ケンブリッジには歴史的建造物が多く存在し、実際にステンドグラスや建物の彫刻を見たときはその迫力に感動しました。現地の授業では英語特有の言い回しやイギリスという国の歴史や伝統文化を学びました。滞在中に

サマータイムへの切り替えも体験でき、同じ島国でも日本とは違った部分がたくさんあるのだと学びました。

また現地の大学生の皆さんはとても親切で、拙い英語で話しかけても笑顔で会話を広げてくれました。

3週間という短い期間でしたが、とても充実した貴重な体験となり、心から感謝しています。

2年J組 河原 美稀 (牛込一中)

この研修を通して、私は「コミュニケーションこそが人生を変える」と確信しました。

この3週間という短い間、他の付属校の生徒だけでなく、ケンブリッジにある学校の人たちや、犬を連れて橋の上で日光浴をしているおじいさんなどたくさんの人と出会って、彼らの生活や考えを知りました。同じ趣味を持つ人たちと話すのはとても楽しかったし、まったく違う人たちと話すことで、この研修

に参加できていなかったら、学べなかったであろうことに触れることができました。たくさんの人と出会って、ケンブリッジの地で重ねたコミュニケーションの全部が私の糧となりました。

今後は、この経験をあらゆる場面で生かし、コミュニケーションを通じて視野をもっと広げていきたいと思います。貴重な機会を与えてくださったことに心から感謝しています。ありがとうございました。



三年生を送る会

生徒会指導部 久保田善政

三年生を送る会が二月二十一日(金)、本校体育館・テニスコートにて開催された。この三年生を送る会は、生徒会役員会と体育祭実行委員会を中心に、放送部の協力も得て運営される。午前中はクラス対抗ドッジボール大会で、クラスが一球となって一生懸命取り組み姿が見られた。午後は体育館にてドッジボール大会の表彰から始まり、部活動や先生方からのメッセージと三年間の思い出を辿るスライドショー、最後は教員職員、食堂や購買部の方、守衛さん等の有志による合唱「正解」で、大きな盛り上がりを見せていた。ドッジボール大会の結果は次の通りである。

ドッジボール大会結果

男子			女子		
優勝	二年H組		優勝	二年G組	
二位	二年C組		二位	三年G組	
三位	一年E組		三位	二年C組	



令和六年度芸術鑑賞会

令和七年二月十三日、千代田区有楽町の東京宝塚劇場にて芸術鑑賞会が行われた。今年度鑑賞したのは宝塚歌劇団月組の「ゴールデン・リパティ」と「フェニックス・ライジング」。例年貸し切りやそれに近い状態で鑑賞することが多かったが、今回は一般のお客さんに本校の生徒が混ざるといふ状態に近かったため、いつもとは異なる緊張感に満ちていた。

初めての宝塚歌劇団

三年D組 鈴木 萌希(中村中)
初めて宝塚歌劇を鑑賞し、純粹に劇を楽しむことができました。その中で私が特に驚いたことが二つあります。

まず一つ目は劇の際中絶え間無く流れていた演奏です。舞台の最初に指揮者の方が紹介されたので、劇ではなく演奏から始まるのかなと思いました。ダンスが始まり、見ているうちに場面ごとに変化が加わることが分かりました。劇に生演奏が加わることによって、迫力が増して自然と物語の世界に引き込まれて行きました。

二つ目は、舞台の構成やメイク、衣装、舞台装置などの劇以外の裏方の作業です。お客さんから見える舞台という限られた空間だけで、自由の女神や走っている列車などを表現できることに驚きました。不思議に思っているところ、舞台装置を入れ替える際には照明

の色や明るくする位置を変えたりして、裏方のスタッフ達が作業をしていることに気付きました。それから入れ替わる度に気になってしまいましたが、もともと近くに行ってみてみたいと思いました。また装置だけではなく、男性役、女性役をパッと見ただけで判別できる色とりどりの衣装にも興味を湧きました。老若男女どの役の衣装も演者がまるで普段から着ている服であるかのように似合っていて、演じているのが全員若い女性だということを忘れそうでした。

フェニックス・ライジングでは劇とは異なり、色々な国の特徴やイメージを踏まえた派手な衣装が印象に残りました。照明が当たってキラキラと輝いている部分、激しく踊って全然乱れない衣装はいったいどんな風にできているのか、こちらも近くで見たいと思いました。

私が座った席のすぐ前が通路であつたため、劇の途中演者さんが目の前まで来てくれて、とても近い距離で鑑賞できたのも貴重な体験でした。他の作品も自分の足で行きたいなと思いました。



2024年度（令和6年度）の進路概況

令和6年度卒業生は総進コース356名、特進コースは30名、合計386名でした。

以下の表（合格者数）と進学状況を交えながら、前年度を振り返りたいと思います。

【総進コース】

日本大学への進学率は68.0%、他大学への進学は28.9%、その他各種学校への進学者を含めると進学合計は97.8%でした。進学率は昨年度と大きく変化はありませんが、若干他大学進学者が増加しました。本校が他大学の指定校推薦の枠を多くいただいていることや、付属にしながら目標に向かって他大学進学を意志強く持った生徒が一定数いることが要因と考えられます。合格校があったにもかかわらず、次年度にチャレンジする生徒もいました。また日本大学への進学では、第3希望まで出願できる基礎学力選抜のセレクションで、7割以上の生徒が第1志望で通過しました。第1志望での通過は、基礎学力到達度テストの得点が付属校で上位であった表れです。また、芸術学部への進学者が

過去最高の27人となりました。本校で開いた学部説明会で意識を高め、早期から準備してきた結果が出ました。

【特進コース】

特進コースは国公立・難関私大の合格を目指すコースですが、国公立の合格者が11名で約3人にひとりが国公立合格となりました。私立大学は前年度と比較して、早慶上理は3人→15名、GMARCHは16名→24名、その他私大は64名→71名と増加しました。少人数かつ担任のきめ細やかな指導と20年以上のデータの蓄積が実を結んだ結果です。特進コースでは、勉強合宿の実施や、学年を横断して先輩が後輩にアドバイスをするなど、日々の活動に自ら学ぶ姿勢を作るための工夫をたくさんちりばめています。また、特進コース主任を中心に担任同士の連携を深め、入試情報を共有し、新課程入試に対応しました。2年次に総進コースから特進コースへ移動した生徒も国公立大学への合格を果たすなど、総進コースとの連携がきちんと取れたことも結果に繋がった一因と考えられます。

令和6年度卒業生 合格状況

令和7年3月31日現在

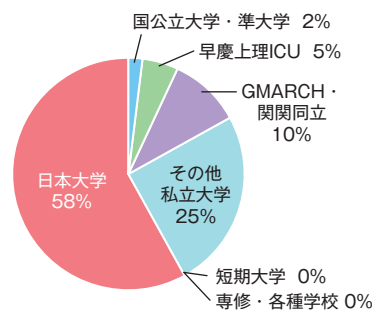
大学名	合計	学部名	総進 コース	特進 コース
国公立大学・準大学				
筑波大	1	情報学群	0	1
電気通信大	2	情報理工学域	0	2
東京農工大	1	農	0	1
信州大	1	農	0	1
富山大	1	都市デザイン	1	0
岐阜大	1	応用生物科	0	1
琉球大	1	農	0	1
東京都立大	2	理	1	0
		システムデザイン	0	1
川崎市立看護大	3	看護	0	3
早慶上理ICU				
早稲田大	9	文	0	2
		商	0	1
		教育	0	2
		文化構想	0	2
		スポーツ科	0	1
		創造理工	0	1
慶應義塾大	2	法	1	0
		理工	0	1
上智大	3	経済	1	0
		総合人間	0	1
		理工	1	0
東京理科大	11	経営	3	0
		創域理工	1	1
		先進工	2	0
		工	1	3
国際基督教大	1	教養	1	0
GMARCH / 関関同立				
学習院大	8	法	4	0
		経済	1	0
		文	1	0
		国際社会	1	0
		理	1	0
明治大	12	法	0	1
		商	1	0
		国際日本	1	0
		政治経済	1	0
		情報コミュニケーション	1	1
		農	0	1
		総合数理	1	0
		理工	1	3
青山学院大	8	法	0	1
		総合文化	0	1
		理工	3	3
立教大	6	文	2	0
		観光	1	0
		スポーツウエルネス	1	0
		現代心理	0	1
		社会	1	0
中央大	4	法	1	1
		経済	1	0
		総合政策	0	1
法政大	17	法	1	1
		経済	1	0
		経営	1	2
		社会	3	1
		国際文化	0	1
		現代福祉	0	1
		情報科	1	0
生命科	0	1		
		理工	0	3
同志社大	1	経済	1	0
その他私立大学				
麻布大	2	獣医	0	1
		生命・環境科	1	0
跡見学園女子大	1	文	1	0
桜美林大	4	芸術文化	1	1
		リベラルアーツ学群	0	1
		グローバルコミュニケーション学群	0	1
学習院女子大	1	国際文化	0	1
北里大	2	医療衛生	0	2

大学名	合計	学部名	総進コース	特進コース
共立女子大	1	看護	0	1
杏林大	3	保健	0	3
近畿大	1	工	1	0
工学院大	3	情報	1	0
		工	0	1
國學院大	1	建築	1	0
		観光	1	0
駒澤大	5	文	3	0
		グローバルメディアスタディーズ	0	1
駒沢女子大	2	医療健康	0	1
		看護	2	0
芝浦工業大	5	工	1	1
		システム理工	1	2
淑徳大	1	看護栄養	1	0
順天堂大	1	保健医療	0	1
昭和医科大	1	薬	0	1
昭和女子大	1	国際	0	1
昭和薬科大	4	薬	1	3
杉野服飾大	1	服飾	1	0
成蹊大	7	法	1	2
		経済	1	0
成城大	11	経営	1	0
		理工	1	1
高千穂大	1	法	1	0
		文芸	3	3
玉川大	3	経済	2	1
		社会イノベーション	1	0
津田塾大	3	経営	1	0
		文	1	0
帝京大	2	教育	1	0
		農	0	1
帝京科学大	1	学芸	0	2
		総合政策	0	1
帝京平成大	2	薬	0	1
		医療技術	0	1
東海大	4	生命環境	1	0
		ヒューマンケア	1	0
東京医療保健大	6	国際	0	1
		文化社会	2	0
東京工芸大	12	医	0	1
		医療保健	0	1
東京女子医科大	1	東が丘看護	1	1
		立川看護	2	1
東京成徳大	4	芸術	1	0
		現代教養	7	5
東京電機大	10	看護	1	0
		経営	1	0
東京農業大	7	工	1	3
		農	1	0
東邦大	2	生命科	1	0
		生物産業	1	0
東洋大	6	応用生物科	5	1
		国際食料情報	0	1
日本獣医生命科学大	2	薬	1	2
		生命科	1	3
日本女子大	2	理	0	2
		社会	2	3
日本赤十字看護大	1	生命科	0	1
		獣医	0	1
文京大	1	応用生命科	1	0
		文	1	0
星薬科大	1	国際文化	0	1
		看護	0	1
武蔵野大	2	看護	1	0
		造形構想	1	0
武蔵野美術大	1	造形構想	1	0
明海大	1	ホスピタリティ・ツーリズム	1	0

大学名	合計	学部名	総進コース	特進コース
明治学院大	4	文	2	0
明星大	1	社会	2	0
目白大	2	理工	0	1
横浜薬科大	2	メディア	0	2
和光大	2	薬	0	2
		表現	1	0
		現代人間	1	0
短期大学				
埼玉女子短期大	1	商学科	1	0
専修・各種学校				
国際文化理容美容	1		1	0
慈恵第三看護	1		1	0

日本大学				
学部名	合計	総進コース	特進コース	
法	45	39	6	
文理	53	38	15	
経済	53	49	4	
商	29	22	7	
芸術	42	31	11	
国際関係	6	3	3	
危機管理	8	6	2	
スポーツ科	2	1	1	
理工	47	34	13	
生産工	6	4	2	
工	2	0	2	
松戸歯	2	2	0	
生物資源科	38	31	7	
薬	8	7	1	

合格者数(586名)に対する合格者数割合



特進コース(30名)に対する合格者数割合



相談室

高校生が一日の大半を過ごす学校は、実にさまざまなことが起こる場所です。友だちとの関係、部活動のこと、進路の悩み……一人で抱えるにはあまりに大きな困難や課題と直面しながら生徒は生活しています。

そのような問題は周囲の友達や家族、先生方に相談することで解決できるものも多いとは思いますが。しかし、時には誰に相談していいのかわからなくなり、焦り、不安が募ることもあるでしょう。また、ただ話を聞いてもらいたい、気持ちを分かってもらいたい、そう願うことも少なくはないと思います。そのようなときには生活相談室を訪ねてみてください。相談室は修学寮の一階にあり、綺麗であたたかな空間です。一人でも、友だちと一緒にでもかまいません。「ちょっと休憩してみよう」という感覚でお話しをすることができます。

新しい環境での生活に体は慣れても、心が慣れるまでには時間がかかることもあるでしょう。これでいいのかなと迷ったり、ちょっと無理して頑張ってしまったことに疲れてしまったり。少しずつでも自分らしく笑顔で楽しく生活したい、とは誰もが願うこと。一人でも多くの生徒が居心地の良い環境で充実した学校生活を送れるよう、生活相談室はお手伝いをしたいと思っています。時間のかかることもあると思いますが、不安などを解消できるような一緒に考えていきましょう。

今年度は日本大学本部より火曜日と金曜日にカウンセラーが来校いたします。また、相談室直通の電話もあります。お気軽に相談室をご利用ください。

令和7年度 教育実習生一覧

実習生氏名	教科（科目）	教科担当者	HR担当者
高坂颯太郎	古典探究	東 條	東 條
川崎 彩	文学国語	千 葉	千 葉
山縣 奈央	公 共	林	大 館
海老澤未薫	公 共	立 原	立 原
折原 舞	地理探究	井上陽	井上陽
中島 快	日本史探究	相 沢	土 橋
田村 駿将	日本史探究	賀 来	村 山
柴 陽菜	日本史探究	長谷川	長谷川
内田 翔仁	数学Ⅱ・B	石 山	石 山
中野 羽菜	化 学	生田目	生田目
原 和人	化学基礎	中 森	中 森
鈴木 啓太	生物基礎	山 崎	堀 内
鈴木 源人	物 理	久保田	伊勢川
星 来夢	英コⅠ・論表Ⅰ	有 賀	有 賀
長田 佳樹	英コⅠ・論表Ⅰ	加藤寛	加藤寛
森兼 桃子	英コⅠ・論表Ⅰ	齋藤直	齋藤直
加藤 真広	保健体育	津 田	津 田
田中 佐季	保健体育	浅見・丸島	金 箱
中島 美空	保健体育	吉江・横田	中 川
石上 元輝	保健体育	荒 木	荒 木

教育実習

五月十九日から六月七日まで、二十名の実習生が三週間の教育実習に取り組んだ。緊張と期待を胸に抱えながら自分の限界に挑み、刻々と成長していく様子が見られた。本校での経験が、今後教職に就いた際の糧となることを切に願う。

部活動報告

■野球部

▽春季東京都高等学校野球大会（4/4～5/4）

- 1 回戦 本校10－2 豊多摩
- 2 回戦 本校5－1 足立西
- 3 回戦 本校8－0 工学院大付
- 4 回戦 本校7－11 帝京

1 回戦 本校3－0 豊島学院

2 回戦 本校2－1 攻玉社

3 回戦 本校2－0 八王子実践

4 回戦 本校0－2 千代田

※都ベスト16

これにより、全日本団体選手権予選に出場が決まりました。

■サッカー部

▽東京都新人戦5地区大会

- 3 回戦 本校3－0 武蔵野大
- 準々決勝 本校3－2 武蔵丘
- 準決勝 本校3－2 保谷
- 決勝 本校2－0 明大中野
- ※3連覇

▽関東大会東京都予選

- 1 回戦 本校3－0 東
- 2 回戦 本校0－6 実践学園
- ※東京都ベスト16

■バドミントン部

▽新人戦Ⅰ部大会（団体）西東京大会（11月）

女子団体 ベスト8

▽冬季東京大会（1月）

女子団体 ベスト8

▽新人戦Ⅱ部大会（個人）（3月）

男子シングルス2組 優勝

大澤 瑞樹（1 E・東原中）

女子シングルス1組 優勝

神谷美咲子（1 J・住吉中）

女子シングルス2組 優勝

関根美紗希（1 J・千歳中）

▽関東大会東京都予選（4月）

女子団体 ベスト16

▽全国大会西東京予選（個人）（5月）

女子ダブルス ベスト24

新井 萌乃（3 J・練馬中）・

浜田 三咲（3 H・文京一中）

女子シングルス ベスト24

新井 萌乃

■男子バスケットボール部

▽関東大会東京都予選（4/20～4/29）

- 2 回戦 本校92－57 穎明館
- 3 回戦 本校72－58 都立町田総合
- 4 回戦 本校35－73 国士館

▽全国高校総体東京都予選（5/18～5/25）

- 2 回戦 本校63－31 都立富士森
- 3 回戦 本校46－72 都立高島

■女子バスケットボール部

▽杉並大会（1/26・2/16）

- 本校21－52 立教女学院
- 本校58－18 光塩女子学院
- 本校56－2 女子美術大学付属
- 本校39－35 都立杉並

■吹奏楽部

▽第52回定期演奏会開催（3/30）杉並公会堂 大ホール

■アメリカンフットボール部

▽令和7年度東京都春季大会兼第51回関東高校アメリカンフットボール大会予選（4/13～5/11）

- 1 回戦 本校16－6 堀越高
- 2 回戦 本校14－7 都立戸山
- 3 回戦 本校14－48 足立学園
- 順位決定戦 本校13－19 都立西高
- ※東京都ベスト8

■バトントワリング部

▽鶴ヶ丘祭演技披露（6/21）

■ソフトテニス部

▽関東大会個人予選〈女子〉（4/20・27）

都ベスト64

橋爪 彩音（3 A・練馬中）

蜂矢 心夏（3 G・石神井西中）

▽関東団体選手権予選〈男子〉（5/3・4）

■料理部

▽Table For Two活動 プレゼンテーション（3/17）

▽手作り味噌（3/18）

▽テーブルマナー講習@ハイアットリージェンシー東京（3/24）

▽防災訓練炊き出し実施【ポトフ】（3/25）

▽Table For Two活動

料理部考案井販売（合計75食販売）

「鶏飯風ときめき☆丼」（4/21 20食販売）

「ヘルシー肉豆腐丼」

（4/22、4/28 35食販売）

「鮭のちゃんちゃん焼き丼」

（4/24 20食販売）

第1学年
オリエンテーション



第2学年
校外授業

第3学年
校外授業

